

広島県経済の動向

令和8年8月21日

商 工 労 働 局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（１）国内経済の動向	
	（２）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（１）鉄鋼	
	（２）自動車	
	（３）造船	
	（４）一般機械	
	（５）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（１）概況	
	（２）景況感・景況感の変化	
	（３）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（１）概況	
	（２）業種別	
	（３）原因別	
	（４）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（１）県内の有効求人・求職の動向	
	（２）県内の新規求人・求職の動向	
	（３）県内の人員整理の状況	
	（４）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	5月	6月	7月
基調判断	景気は、穏やかに回復しているが、 中東情勢の影響を注視する必要がある		
輸 出	おおむね横ばい となっている	このところ 持ち直しの動きが みられる	
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる ただし、消費者マインドが このところ弱い動きとなってい ることに注意が必要である	持ち直しの動きが みられる	
住宅建設	弱含んでいる		
消費者 物価	緩やかに上昇している		
企業収益	改善の動きがみられるが、中東情勢の影響を注視する必要がある		

イ 先行き

雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を引き続き注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和8年7月29日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	4月	5月	6月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	緩やかに持ち直している		
生 産	緩やかに持ち直している		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	下げ止まっている		
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	1%台後半のプラスとなっている	1%台半ばのプラスとなっている	

イ 県内の経済の先行き

今後の中東情勢の展開や原油価格の動向などが、企業の生産や賃金・価格設定行動、個人消費の動向など、県内の金融経済情勢に与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和8年7月1日公表)】

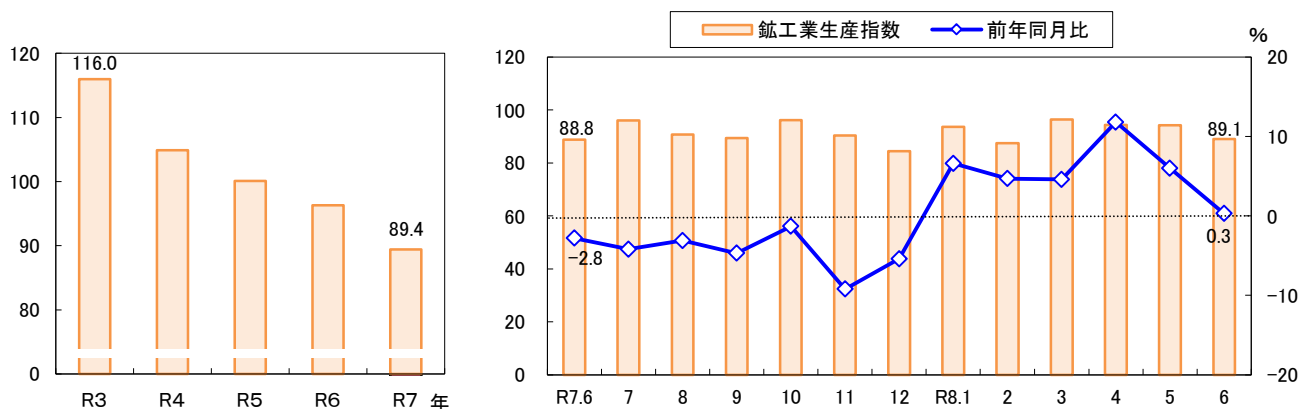
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和8年6月）

6月の鉄工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、令和2年＝100）は89.1で、前年同月比で0.3%増加となっている。

鉄工業生産指数(鉄鋼業)(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

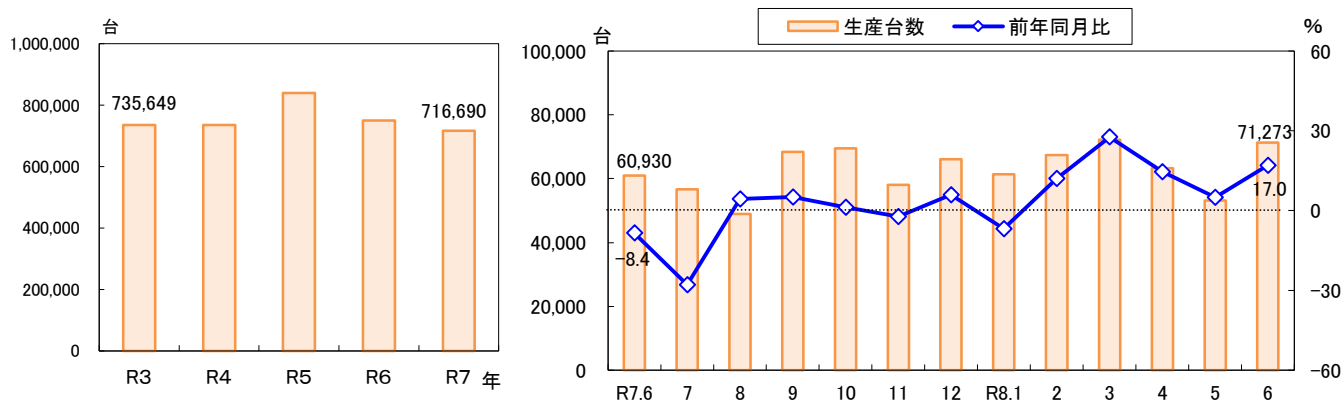


(2) 自動車（令和8年6月）

6月の国内生産台数は71,273台で、前年同月比で17.0%増加となっている。

自動車生産台数(年別・月別・前年同月比)

【マツダ(株)】

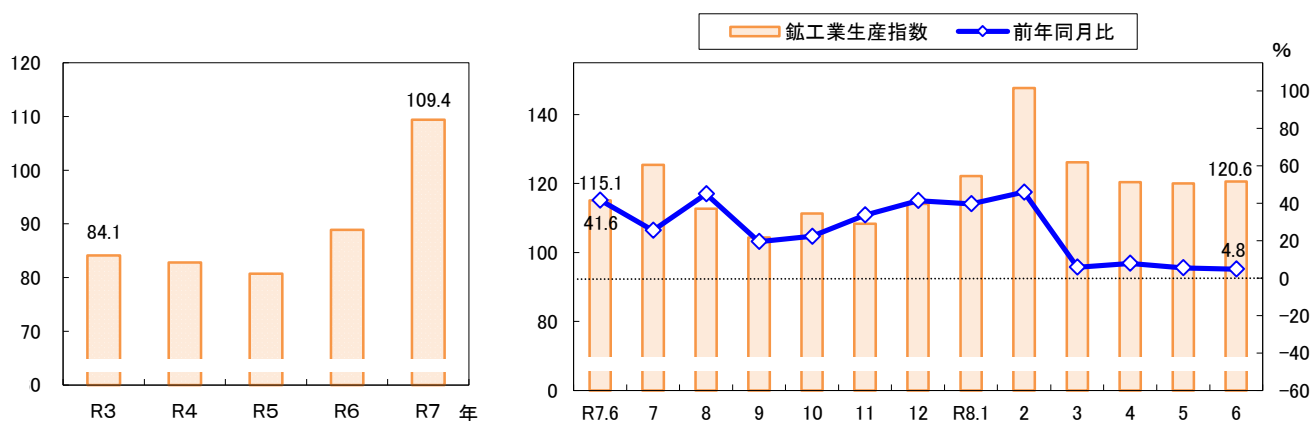


(3) 造船（令和8年6月）

6月の鉄工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、令和2年＝100）は120.6で、前年同月比で4.8%増加となっている。

鉄工業生産指数(造船部門)(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

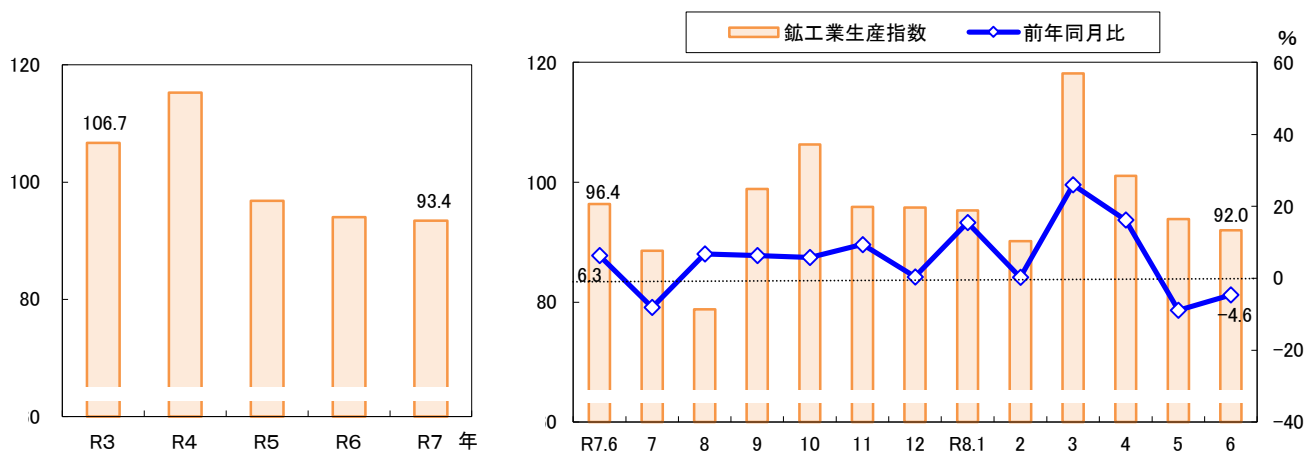


(4) 一般機械（令和8年6月）

6月の鉱工業生産指数（一般機械工業（総合）、原指数、速報値、令和2年＝100）は92.0で、前年同月比で4.6%減少となっている。

鉱工業生産指数（一般機械工業（総合））（年別、月別・前年同月比）

【県統計課】

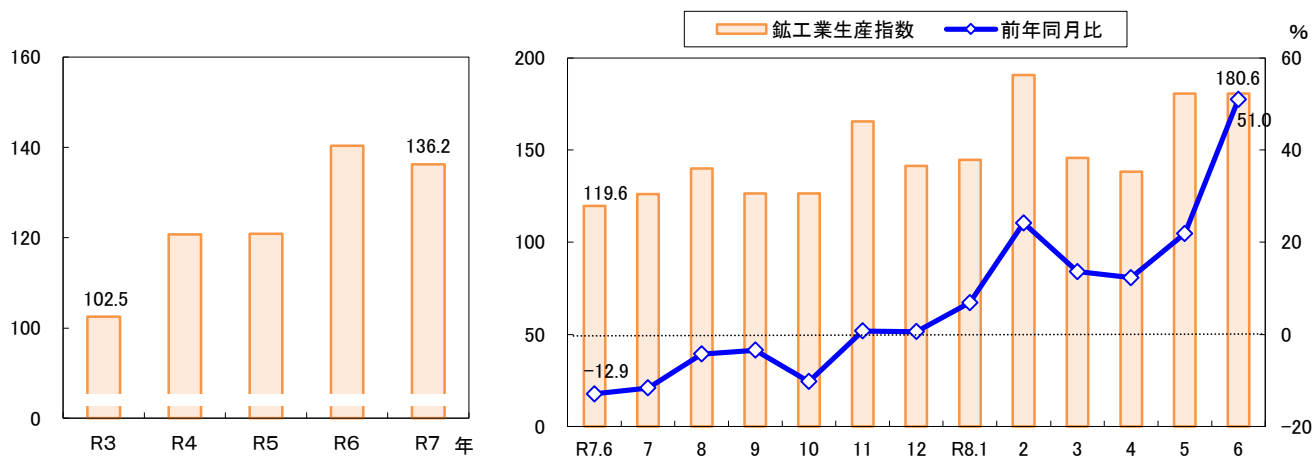


(5) 電気機械（令和8年6月）

6月の鉱工業生産指数（電気機械工業（総合）、原指数、速報値、令和2年＝100）は180.6で、前年同月比で51.0%増加となっている。

鉱工業生産指数（電気機械工業（総合））（年別、月別・前年同月比）

【県統計課】



3 中小企業の動向（令和8年6月）

【広島県中小企業団体中央会（令和8年7月15日時点）】

（1）概況

県内の多くの中小企業では、原材料や資材、エネルギーコストに加え、人件費や物流費など経費全般が高騰する中、コスト上昇分を販売価格へ十分に転嫁できず、収益が圧迫されるなど、厳しい状況が窺える。先行きについても、国際情勢の影響などにより、回復の見通しは依然として不透明である。

自動車関連業種では、6月の国内自動車販売台数は前年同月比+8.6%と3か月連続増加しており、マツダ車は前年同月比+19.1%と5か月連続の減少から増加に転じた。

また、木材業界では、6月の全国新設住宅着工戸数は66,344戸で前年同月比+18.6%となり、県内の6月の着工戸数は1,111戸で、前年同月比▲3.1%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「6月および1～6月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の6月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	5月の景況感	6月の景況感
食料品	普通	普通
繊維・衣服	普通	普通
木材	やや悪い	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	普通	普通
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	やや悪い	普通
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（鋳物）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	やや悪い

業種	5月の景況感	6月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	やや悪い	やや好況
自動車部品	やや好況	やや好況
造船	やや好況	やや好況
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	5月	6月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	2	3	1
普通	5	6	1
やや悪い	11	9	▲ 2
悪い	1	1	0

(3) 前月（5月）から変化のあった主な業種

業種	5月の 景況感	6月の 景況感	変化の理由・状況
プラスチック 製品	やや悪い	普通	中東情勢に伴い石油化学製品の原料（ナフサ）の価格が上昇しており、販売価格への転嫁を急いでいるが、価格に反映されるまでに時間差があり、経営への影響は大きい。また、消費財の需要は先行きが不透明であり、今後の動向を注視する必要がある。 【広島県プラスチック工業会】
電気機械 器具	やや悪い	やや好況	・イラン情勢の先行きが見通せないため、顧客企業の設備投資意欲が慎重になっており、設備機械や装置を製造する地場企業にとっては、引き続き影響が続いている。 ・原油価格は落ち着いているものの、原材料価格の高騰傾向はさらに強まっている。値上がり分を販売価格に反映させることや、生産性を高める取り組みが求められる。 ・A I 関連の製品は、需要の増加に伴い売上が伸びている。 ・ディスプレイや電子部品については、自動車向けの印刷製品で顧客企業の生産調整の影響が大きく、売上が減少している。 【広島県東部機械金属工業協同組合（電気機械器具）】

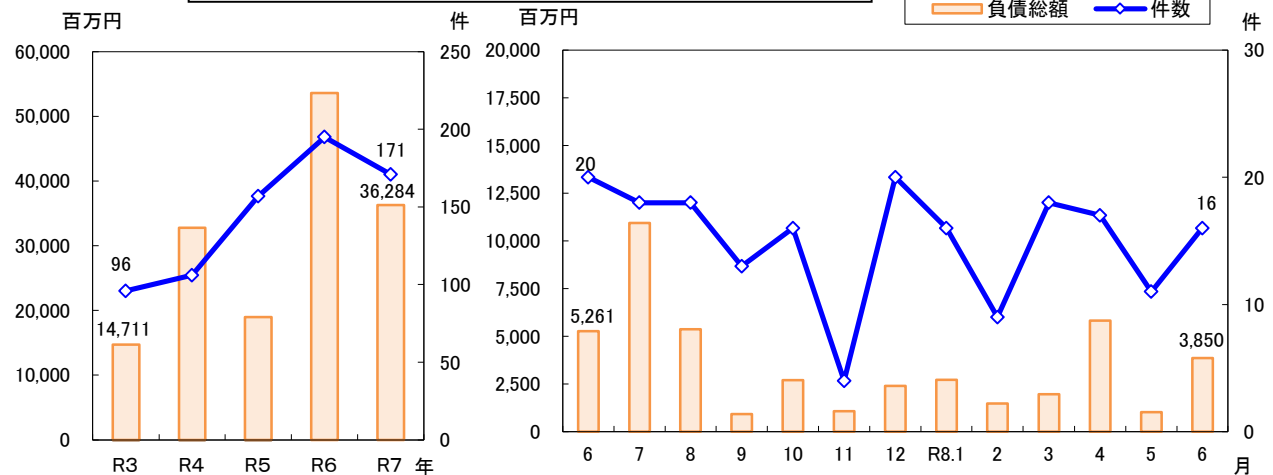
4 企業倒産状況（令和8年6月）

(1) 概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が16件、総額38億5,000万円であった。
前月比では、件数が5件増、負債総額は28億2,400万円増加した。
前年同月比では、件数は4件減、負債総額が14億1,100万円減少した。
大型倒産（負債総額10億円以上）は1件であった。

区 分	令和8年4月	令和8年5月	令和8年6月
件 数 (前年同月比)	17件 (5.6%減)	11件 (±0.0%)	16件 (20.0%減)
負債総額 (前年同月比)	5,823百万円 (190.4%増)	1,026百万円 (29.4%減)	3,850百万円 (26.8%減)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別、月別・前年同月比)



(2) 業種別

件数は、製造業が5件、卸・小売・飲食業が4件、建設業3件、サービス業、その他が各2件となった。
負債総額は、建設業、製造業、卸・小売業・飲食業、サービス業、その他の順となった。

(3) 原因別

原因別では、販売不振が16件であった。

(4) 今後の見通し

令和8年6月度の倒産件数は16件、負債総額38億5,000万円で、件数は前年同月比は4件減、前月比は3ヶ月ぶりの増加、負債総額は前年同月比は2ヶ月連続の減少、前月比は2ヶ月ぶりの増加となった。

業歴別倒産状況では30年以上が7件、20年以上が3件、10年以上が4件となり、業歴10年以上の倒産が全体の87.5%となり、前月5月度では業歴10年以上の倒産が全体の45.4%に止まったが、近年では比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が16件で最多となり、既往のシワ寄せは0件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は16件で全体の100%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は6月度16件中4件発生し、これまでの累計は334件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となった。近時、増加傾向である代表者の急逝を要因とした倒産については発生しなかった。

ホルムズ海峡を中心とした海外情勢の変動によって海外製品の高騰や供給不足が国内企業へ与える影響は止まることをしらず、物価高や円安も重なり企業の対応力が試されている。商品やサービスに競争力を持つ企業については価格への展開が可能であるが、多くの企業は今後更なる競争激化が進んでいくものと見られる。

また、2026年6月には日本銀行が政策金利を1.0%に引き上げることを決定し、過去10年以上にわたって実施されてきた異次元の金融緩和から、金利水準を本格的に調整していくフェーズへと移行し、長きに及んだ超低金利時代は大きな転換期を迎えている。

現在の企業にはこうした変革期や時流への対応力が求められ、既存の枠組みに縛られない柔軟な組織運営が必須と言える。企業は生き残りをかけてより厳格なサプライチェーンの構築や販売先の確保、商品、サービスの見直しが求められる。競争力を持たない企業は市場からの脱落を余儀なくされ、今後はより激しい競争が続くものと見られる。

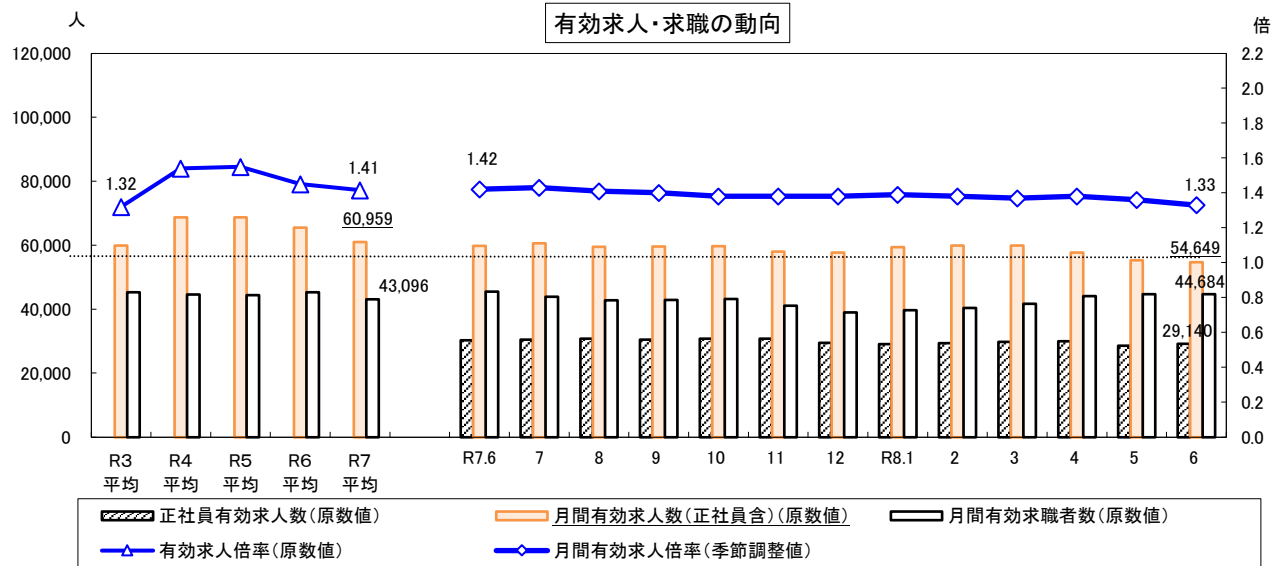
【(株)東京商工リサーチ(令和8年7月3日時点)】

5 最近の雇用失業情勢（令和 8 年 6 月）

(1) 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和 8 年 4 月	令和 8 年 5 月	令和 8 年 6 月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.38倍 (+0.01ポイント)	1.36倍 (▲0.02ポイント)	1.33倍 (▲0.03ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.16倍 (▲0.07ポイント)	1.13倍 (▲0.05ポイント)	1.16倍 (▲0.04ポイント)

【広島労働局】

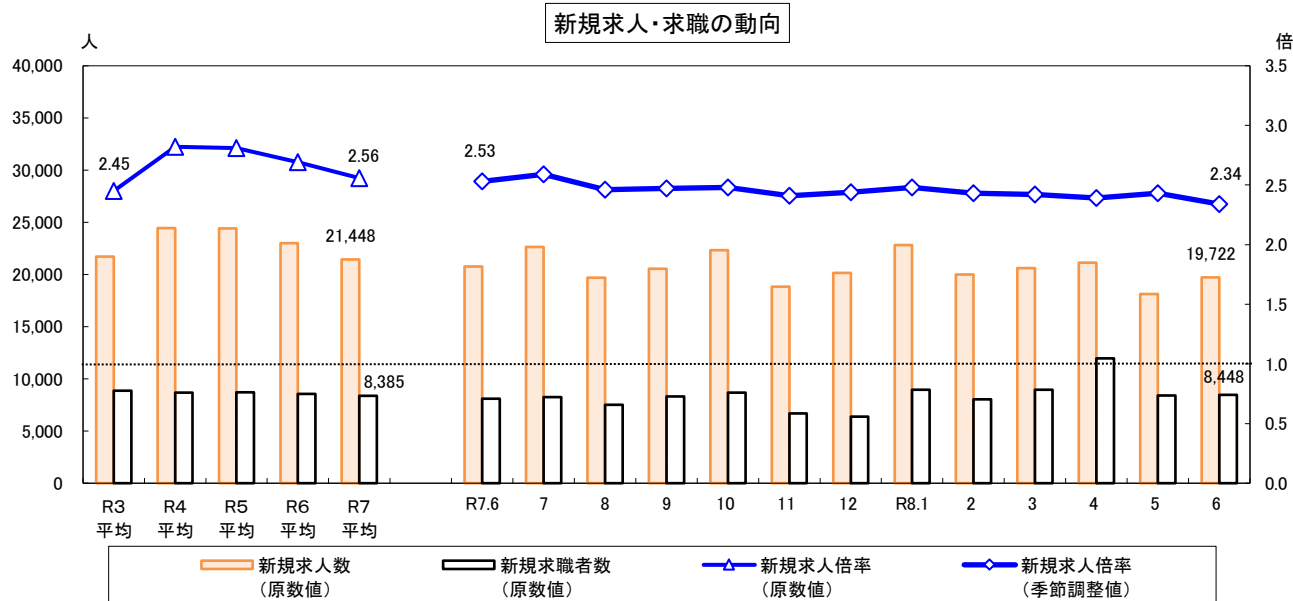


- (注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
- (注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
- (注3) 季節調整値は毎年 1 月分公表時に過去に遡って改訂される。

(2) 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和 8 年 4 月	令和 8 年 5 月	令和 8 年 6 月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.39倍 (▲0.03ポイント)	2.43倍 (+0.04ポイント)	2.34倍 (▲0.09ポイント)

【広島労働局】

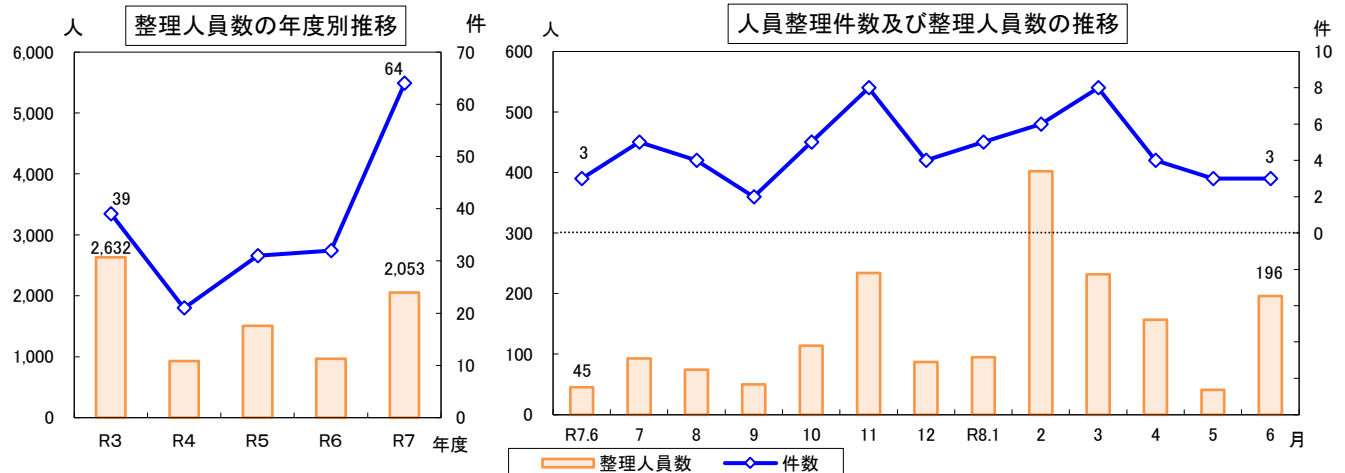


- (注) 季節調整値は毎年 1 月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和8年4月	令和8年5月	令和8年6月
件数 (前年同月比)	4件 (▲3件)	3件 (▲4件)	3件 (±0件)
整理人員 (前年同月比)	157人 (▲41人)	41人 (▲388人)	196人 (+151人)

【広島労働局】

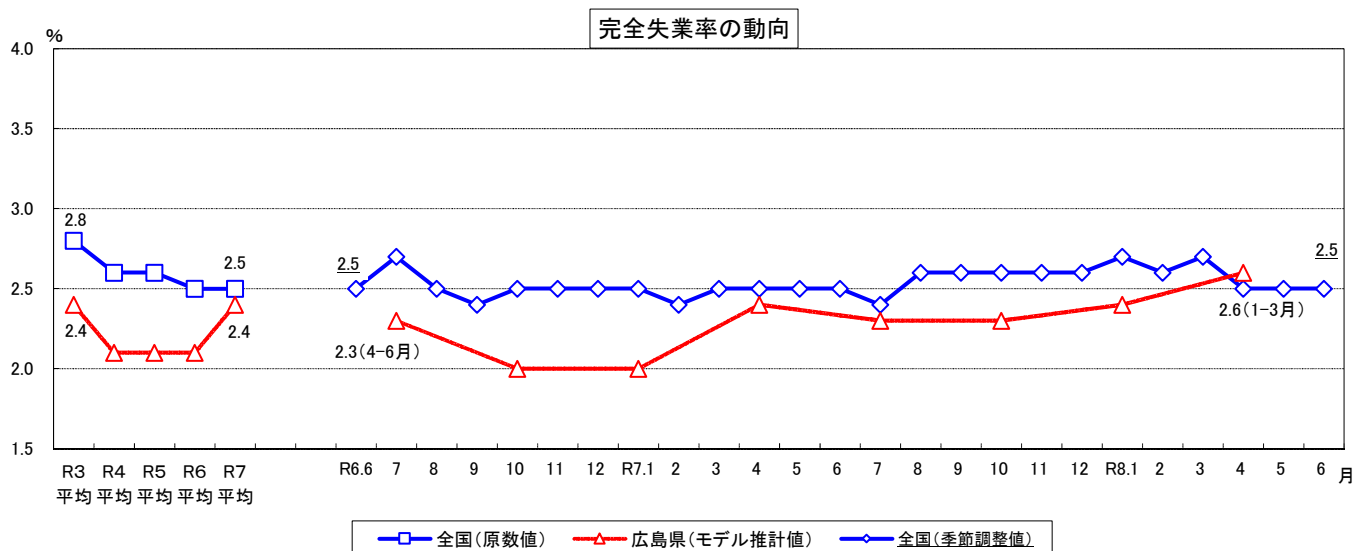


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和8年4月	令和8年5月	令和8年6月
全国完全失業者数 (前年同月比)	193万人 (+5万人)	185万人 (+2万人)	178万人 (+2万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.5% (▲0.2ポイント)	2.5% (±0.0ポイント)	2.5% (±0.0ポイント)

区 分	令和7年		令和8年
	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.3% (+0.3ポイント)	2.4% (+0.4ポイント)	2.6% (+0.2ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。